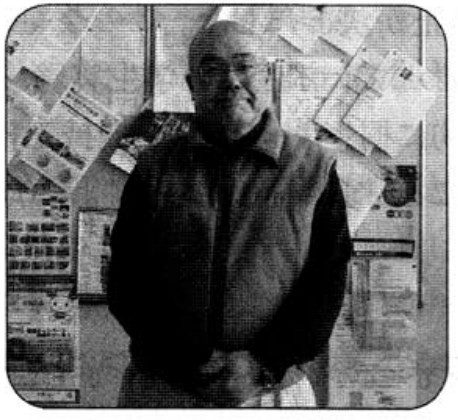
退職挨拶

技術専門職員　石川 信宣



昭和52年に工学部電気電子科へ文部技官として就職し37年の年月が過ぎました。

就職の年に地球を飛び立ったボイジャーは既に太陽系外へと飛行しております。中学生の頃に山を越えて自転車で来た小屋電子模型店の近くに勤めようとは思いもよりませんでした。

無線通信士に憧れ東京へ、世界の海を渡り歩く夢もオイルショックと海運不況で先も無く断念。当時、南極越冬隊長だった教授から「南極に行く気があるなら極地研はどうか?」と勧められ、寒そうなのでと断ってしまった若い自分でありました。

そんな折、下宿に一枚の葉書が群馬大学から?面接を受けると通信系の研究室を立ち上げるので募集しているとの事。上司は後に工学部長になられた森永隆廣先生でした。移動通信業界の先端で仕事をする事になりました。

この環境から民間人として移動通信最初の（自動車電話からの）通話をする事もできました。また、世間に出る前のテレホンカードも使う事ができました。初期の頃は携帯機器のアンテナ測定や室内での電波伝搬実験など頭よりは体力を使うような仕事をしておりました。森永教授は1978年頃に「石川君、将来の電話は手のひらに乗るくらいになるよ」と言われていたのを思い出します。

その後、堀越淳准教授、小林春夫教授と上司は変わりましたがとても良い環境を継続しつつ定年を迎える事ができました。大学を職場とした事で会えないような人とも面識を持てるのも楽しみでした。

最近ではスウェーデン大使館で行われた助教の先生の表彰式に招待され、パーティに家内と参加して大使と会話できたのも心に残る思い出であります。

また、多くの学生とも知り合う事ができ留学生も含め、広範な知己を得たのも一生の宝と思います。

定年を迎えるにあたり、今まで指導していただいた先輩、同僚、鬼籍に入った方々も含め深く感謝いたします。

来年度からの再雇用制度で本当の退職は5年後、まだ居るのか?と言われないように頑張りたいと思います。